

台風（大雨・強風）に備える営農技術対策

令和4年（2022年）9月16日
留萌農業改良普及センター

台風14号は、20日から21日頃にかけて日本海を北上し、北海道に接近するおそれがあります。19日以降は強風に十分注意してください。

今後の台風の進路によっては、強風などによる農作物等への影響が懸念されますので、最新の気象情報に十分注意し、次の事項の徹底に努めてください。

現在の予測では、20日夜から風が強まる見込みです。対策は今の内に行ってください。

1 ビニールハウス等農業施設の強風対策

- ① 農舎や畜舎などの屋根や壁の点検・補修を行い、風雨による被害を防止する。
- ② ビニールやハウスバンド等施設各部の損傷・ゆるみなどを点検し、必要に応じて補修する。栽培を終えたハウスは、ビニール等はずしておく。
- ③ ハウスバンドを固定するアンカー杭が浮き上がっていないか確かめ、修正しておく。
- ④ ハウスの筋かいは、緩んでいるところだけを締め付けると周囲の筋かいは緩むので、ハウス全体の筋かいは均等に締め付けられるように調節する。
- ⑤ ハウスの出入り口、天窓、側窓、換気扇及び側面のフィルム巻上げ部などの開口部が、きちんと締まるかチェックしておく。
- ⑥ ビニールフィルムが強く緊張するように、ハウスバンドをきつく締めておく。バンドレスの場合は、フィルムを均等に緊張することが難しく、強風でフィルムがバタつくフィルムが破れやすくなるので、妻側端部及び適当な中間部に防風ネットを張り、バタつかないようにする。

2 大雨対策

- ① 低地や排水不良地など滞水が心配される畑地では、明渠や排水溝へ排水できるよう溝を掘るなどの排水対策を講じる。
- ② ビニールハウス・農舎・畜舎・サイロ・飼料庫等に水が入り込む恐れがある場合は、施設の補修のほか、施設周辺に排水溝を掘り、土のうを積むなどにより施設への浸水を防ぐ。
- ③ 堆肥場や尿溜に雨水が流れ込み、あふれ出す恐れがある場合は、土盛りなど行い河川への流出を防ぐ。
- ④ 牧草地等に仮置きしているロールベール乾草やラップサイレージは、滞水の恐れのない場所へ移動する。水の流れを確保し、浸水、冠水の恐れがある水田では、排水口の解放や畦畔を切る等の排水対策を行う。
- ⑤ 氾濫する恐れのある河川周辺への放牧は避ける。放牧する場合は目の届く放牧地へ放牧する。
- ⑥ 水を吸って発熱する生石灰や、漏電を引き起こす電気コードなどは、雨の当たらない場所や水がかからない場所に移動したり防水対策を行う。

3 停電・断水対策

- ① 常備している懐中電灯の電池残量の確認、畜舎内の整理・整頓の徹底により、夜間停電での突発的な人身事故に備える。特に、畜舎では必要電力量を把握し、自家発電機を手配しておく。所有している自家発電機は燃料を確認し、試運転を行っておく。また、断水に備え給水タンクを手配しておく。